

【事例紹介】

## 香川県における留学生の就職支援

### －「留学生と地域企業をつなぐ就職関連支援<sup>1</sup>」を中心とした 各種事業の紹介－

Career Support for International Students in Kagawa:  
Introducing Various Initiatives Based on “Career Support Bridging  
International Students with Local Community”

香川大学インターナショナルオフィス 高水 徹  
TAKAMIZU Toru  
(International Office, Kagawa University)

キーワード：留学生の就職支援、多文化共生社会

#### 1. はじめに

近年、留学生に関する就職支援は、様々な形態で実施されてきている。留学生の就職支援を促進する方針は、国のレベルにおいても、香川大学または香川県留学生等国際交流連絡協議会（以下、協議会）が関わってきたもののみを挙げても、「アジア人財資金構想<sup>2</sup>」、「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業<sup>3</sup>」などの事例に示されている。さらに、この数年来本協議会による事業が採択され、ご支援いただいている「留学生と地域企業をつなぐ就職関連支援」についても、協議会による促進の方向性が理解され、その結果としてご支援いただいていると理解している。留学生を対象とした就職支援は、大学側からの視点では、学生支援の一種であり、出口支援という呼称が示すように、最後の段階で提供されるサービスである。一方で、社会、あるいは地域社会から見れば、学生から社会人へとつなぐ段階での支援であり、その意味で入口の支援である。本稿では、協議会およびその事務を司る香川大学インターナショナルオフィスによる「留学生と地域企業をつなぐ就職関連支援」の事例を紹介させていただき、香川県における留学生の就職支援の現状をご理解いただくとともに、一部でも

<sup>1</sup> 公益財団法人中島記念国際交流財団助成による日本学生支援機構実施事業である。平成 28 年度の事業に関しては、以下の URL を参照。

[http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryujigyou/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/15/2016nak41\\_kagawa.pdf](http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryujigyou/_icsFiles/afieldfile/2017/05/15/2016nak41_kagawa.pdf)

<sup>2</sup> [http://www.meti.go.jp/policy/asia\\_jinzai\\_shikin/](http://www.meti.go.jp/policy/asia_jinzai_shikin/) を参照。

<sup>3</sup> 以下の各 URL を参照。

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kokusai/2013/0308Teichaku.html>

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kokusai/2014/140226Teichaku.html>

<https://www.spc21.jp/fss/>

参考にしていただけるようであれば、我々としては望外の喜びである。

本稿で紹介する就職支援は、協議会により実施される、または、香川大学インターナショナルオフィスが共催等の形で関わるものであり、香川大学の場合には、特定の部局ではなく全学の留学生を対象としている<sup>4</sup>。以下で紹介する個々の行事は、ほとんどが協議会の事業に位置づけられるものであり、「留学生と地域企業をつなぐ就職関連支援」も協議会として採択されたものである。協議会には就職支援部会があり、各事業は其中で検討・審議される。協議会の事務局は香川大学が担っており、各行事への参加留学生も基本的には香川大学の学生が多いが、一部の事例においては、他の機関からの留学生のほうが多いこともある。

## 2. 留学生の進路に関連した基礎データ

協議会による留学生を対象とした就職支援に関して、対象となる学生が最も多いのが香川大学である。香川大学は中規模の国立大学法人であり、平成28年5月1日現在の学生数は、学部5,652名、大学院740名で合計6,392名である。同時期の留学生数は207名で、近年はしばらく200名程度であったが、ここ数年はやや増加傾向にあり、平成29年5月1日現在は216名の留学生が在籍している。このうち、就職に直接的に関わってくる学生、つまり、正規生の卒業・修了生は毎年40から50名程度で推移している。

国別に見ると、中国からの留学生が4割程度を占める。つい最近までは6割程度を占めていたので、減少してはいるものの依然として大きい割合である。次いでタイ、バングラデシュ、インドネシア、ベトナムという東南アジアの国々が上位を占めている<sup>5</sup>。

平成28年度卒業・修了生の進路に関しては、表1をご参照いただきたい。

表1：香川大学の平成28年度卒業・修了学生の進路

	9月修了		3月修了		計 人数
	人数	備考	人数	備考	
国内就職	7	うち県内2名	10	うち県内2名	17
帰国就職	4		2		6
国内進学			7		7
帰国進学					0
国内就職中	1		5		6
帰国就職中	1		7		8
国内その他			5		5
帰国その他	2	在学中	1		3
合計	15		37		52

<sup>4</sup> なお、香川大学における就職支援を含む教育プログラムとしては、農学研究科における食の安全特別コースのプログラムがあり、その中での日本語教育に関しては塩井（2013）が報告している。このコースの留学生も、本稿で紹介している支援にはよく参加している。

<sup>5</sup> 香川大学の上記データに関しては、<http://www.kagawa-u.ac.jp/international/statistics/number/> を参照。

高松大学は、香川大学に次いで就職支援行事等に参加してきた実績がある。表2および表3は、それぞれ留学生数とその内訳、卒業生の進路を示している。高松大学も、以前と比較して、東南アジアからの留学生の比率が上昇している。

表2：高松大学の学年及び国籍別内訳

国籍	学年		学部				大学院		非正規生 (交換留学等)
	1年	2年	3年	4年	1年	2年			
中国	1	4	6	5	1	2	1		
ベトナム	1	3	2	1					
インドネシア			3	1				1	
韓国	1								
計	3	7	11	7	1	2		2	

表3：高松大学の平成29年3月卒業学生の進路

進路	学年		学部 4年	大学院 2年	備考
	1年	2年			
日本国内	就職			3	
	進学		1		研究生
	就活中				
帰国	就職				
	進学				
	就活中		4		
計			5	3	

香川高等専門学校に関しては、本事業に直接関わってくる学生が存在しないため、割愛させていただく。

穴吹ビジネスカレッジに関しては、現時点で直接本事業に関連しうる企業ビジネス学科および国際ビジネス学科のデータのみ提示させていただく（表4および表5）。

表4：穴吹ビジネスカレッジ 2学科の学年及び国籍別内訳

国籍	学年		国際ビジネス 学科		企業ビジネス 学科		小計
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	
ネパール	3	16					19
ベトナム	2	2					4
インドネシア	1						1
カンボジア		1					1
中国					1		1
大韓民国					1		1
計	6	19			2	0	27

表5：穴吹ビジネスカレッジ 2学科の平成29年3月卒業学生の進路

進路	学年	学科	備考
		2年	
日本国内	就職	7	
	進学	2	
	就活中	11	
帰国	就職	0	
	進学	0	
	就活中	1	
計		21	

徳島文理大学、四国学院大学には該当留学生が存在しない。また、香川短期大学は実績を公表していない。

### 3. 平成28年度の就職支援：個々の事業について

以下では、個々の事業について記述していくが、①から③は留学生に対する教育を主目的としており、④および⑤は企業に対する情報提供を意図している。⑥は、両者に対する機会提供である。主に平成28年度の実施内容に基づいた記述となっている。同年度の支援一覧に関しては、表6をご参照いただきたい。なお、キャリア相談員による面談は、個別に実施しているものであり、本稿では特に詳細には取り上げないが、留学生による活用状況には年度によるムラがあるのが現状である。

表6：平成28年度就職支援一覧

事業名	日時	実施場所	参加者数				備考
			学生	教職員	協議会構成員 ／企業担当者	小計	
外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会	平成28年8月5日（金） 13:30～16:30	香川大学オーリースクエア2階多目的ホール	24	8	43	75	香川大学インターナショナルオフィス共催
就職活動準備セミナー	平成28年10月28日（金） 11:00～14:45	香川県社会福祉総合センター	14	-	-	14	香川大学インターナショナルオフィス共催
留学生採用支援セミナー&交流会	平成28年11月14日（月） 15:30～19:30	リーガホテルゼスト高松	33	9	52	94	香川大学インターナショナルオフィス・百十四銀行共催
留学生を対象とする香川県下企業の見学会	平成29年1月13日（金） 14:00～16:00	株式会社タダノ志度工場	16	1	-	17	
ビジネスマナー講座	平成29年2月17日（金） 13:00～14:30	香川大学研究交流棟6階第1講義室	8	-	-	8	「留学生と地域企業をつなぐ就職関連支援」に含まれない
キャリア相談員による留学生面談	随時		2	-	-	2	香川大学インターナショナルオフィス共催

#### ①就職活動準備セミナー

本セミナーは、例年3部構成で実施している。第1部は「先輩による就活体験談」、第2部は「日本文化基礎講座」、第3部は「日本における就職活動について」である。年度により、多少呼称を変更することはあるが、基本的な内容は同一である。

第1部では、内定を得た在学中の留学生、あるいはすでに就職して日本で働いている元留学生が講師となり、体験に基づいて自身の就職活動を紹介する。特徴は、学生に近い視点から、本学在学中に実際にどのように動いたかという点に重点を置くことにより、参加学生が身近で具体的な情報を得ることができることである。技術的な面に関しては第3部において専門的な助言を得ることができるが、「自分はこのように実際に問題や困難があり、それをどのように克服した」というような内容は、学生の共感を呼び、「自分もできる／しなければならない」という希望や動機づけを与えることができる。

第2部は昼食を兼ねて、日本の食事マナー（特に和食）を学ぶ内容である。この内容が含まれるようになった契機は、先輩留学生が、上司や取引先等と食事をする際自信が持てないので、学ぶ機会がほしいと要望したことである。焼き魚をどのように食べるか、煮物をどのように口へ運ぶか、等に加え、席次についての知識やお茶の淹れ方なども合わせて学

び、実際に学生にもお茶を淹れさせている。実施の際には、教職員の意図よりもやや学生が固くなりすぎてしまうが、貴重な機会を提供できていると自負している。なお、平成28年度までは本学教育学部の加藤みゆき教授が担当していたが、退職のため29年度以降は外部講師への依頼を予定している。

第3部は、例年株式会社マイナビに講師を依頼し、いわゆる「就活の基礎」を学習させている。日本人学生を主な対象とする同種の説明会よりも内容を絞り、かつ、基礎的な部分を中心に、具体的に平易にご説明いただいている。上記の通り、留学生は一般的に先輩からの情報を共感を持って強く受け止めるが、そのことは時として1次情報の軽視や最新情報を得てそれに基づいて判断するということの妨げになる可能性がある。さらに、大学教職員が同様の情報を提供しても、その重要性が正しく評価されないこともある。外部講師による情報提供の機会は、これらの課題に対する解決として重要である。

上記のように多くの内容を含むイベントであり、4時間程度の時間を必要とするため、香川大学の学園祭後の授業を実施しない日に設定する等の工夫により実施している。そのため、協議会に所属する他の教育機関からは必ずしも参加しやすい日程にはならないという課題は残る。



先輩留学生による就活体験談



食事マナーの学習



本セミナーは、就職活動の準備段階における情報提供という意味合いの強いものである。まずは留学生たちに態度や心構えを作ってもらい、その上で知識を学んでもらいたいと考えている。日本人学生が一般的には「そろそろこういうことをする段階である」ということを周囲の雰囲気や行動から学ぶ機会に恵まれているのに対し、留学生は一般的にはそのような機会以前に、母国とは就職活動の仕組みが異なっている。このような機会の提供により、ギャップを埋めていく必要がある。

## ②企業見学会

留学生に地元企業を見学する機会を提供するのが、本事業の趣旨である。香川大学の課外教育行事においても、企業を訪問・見学して、この場合には教職員が英語に通訳するなどの手助けも行っているが、本事業は就職支援の一環として実施しているため、日本語のみで行っている。

見学させていただける企業を探すことは、必ずしも容易ではない。実施の際には、留学生の興味が、採用関連情報のみに向かい過ぎないようにすることも必要である。他方、受入れ企業から積極的にこの種の情報を公開していただける場合もあり、運がよければ先輩留学生が実際に働いており、体験談を聞かせていただける場合もある。留学生にとっては具体的な目標となるため、非常に有用な機会となる。

本来は、質疑応答の機会なども含め、就職活動における具体的行動の練習にもなりうる行事であるが、現状では、残念ながらそのレベルには達していない学生の参加も多い。その場合でも、意識づけの機会としての意味は重要である。

## ③ビジネスマナー講座

留学生のみを対象としたビジネスマナー講座は、日本人学生を主な対象とした同種の講座よりも基礎的な部分に焦点を当てた講座である。必ず毎年度実施してきたわけではなく、また、28年度に関しては支援の枠外ではあったが、留学生にとっては日本人学生に気兼ねせず、実践的な知識を身につける機会になるため、可能な限り実施してきた。少人数で実施することにより、細部に渡る具体的な助言を個々に得られる点も、留学生にとっては重要である。



お辞儀を学ぶ留学生

## ④実務懇談会

企業の方を対象として、在留資格関連の情報、すなわち、就労ビザに関する情報を提供し、留学生

採用のハードルを下げることを目的としている。高松入国管理局および行政書士に講師を担当していただいている。あまり予備知識をお持ちでない企業については、基本的な仕組みや更新情報に触れていただき、より具体的に留学生の採用を検討している企業については、行政書士との個別相談ないし以後の連絡が取れる体制を提供している。

企業の方にお集まりいただける貴重な機会の1つでもあるため、上記内容の後には、留学生との交流会を実施している。

#### ⑤留学生採用支援セミナー<sup>6</sup>

企業により積極的に留学生の採用をご検討いただくため、先導的事例等を通して、どのような背景で外国人の採用を行い、現在どのように活用しているか、海外進出はどのような形で実施しているか等の情報提供および交換を行うセミナーである。「実務懇談会」が法令面からの支援であるのに対して、本セミナーにおける先導的企業の事例は、留学生採用の動機づけや現状における課題への解決のヒントとなるであろう。

なお、本行事に関して、28年度は株式会社百十四銀行との共催の形で実施することができた。これは予算的な支援のみならず、多くの企業に参加していただくという点において、本学を中心とした開催と比較して、非常に有利であった。地元の銀行においても、国際化する企業を支援する機運が高まっていることは、協議会および本学にとっても、留学生の就職促進の励みとなる。

本行事も、実務懇談会同様、企業の方にお集まりいただける機会なので、交流会と合わせて実施している。

#### ⑥交流会

年度内に複数回、企業の経営者や人事担当者と留学生が談話できる交流会を設けている<sup>7</sup>。この機会は、留学生にとっても企業にとっても、一般的な懇親会以上の意味を有している。

留学生にとっては、本格的な就職活動の場を除けば、企業の方々と接触できる機会は多くはない。最初の接触の機会が試験や面接であるとすれば、そこで日本語を用いて十分に実力を発揮するのは容易なことではない。し



交流会の様子

<sup>6</sup> 年度によっては、本行事に加えて、留学生活用支援セミナーを実施した。両者は、採用時に焦点を当てるか、その後の人材活用に焦点を当てるかの点で異なっている。

<sup>7</sup> 複数回実施している意義は、学生のトレーニングにある。1回目は、学生たちは緊張しており、なかなか本会の趣旨の達成が難しい状況になるが、2回目になると、積極性が向上し、学生自ら企業の方々に話しかけていくようになる。

たがって、この機会は、まず何よりも、ややくつろいだ雰囲気交流できる貴重な機会である。加えて、個別企業の情報や知識を得るための機会でもある。留学生が地元企業、中小企業の情報を得られる機会は、地理的に近いという条件にも関わらず多いとは言えず、このような機会がなければ身近とは言い難い。彼らは、雰囲気も含めて、これらの企業に直接触れることができる。



交流会の様子

一方で、企業の方々にとっても、現状では留学生はあまり身近な存在になっていない。交流会に参加して下さる一部企業は、すでに採用実績等もあり、「最近の」ないし「今年の」留学生との交流という形で参加して下さっているが、それ以外の企業は、留学生の雰囲気、日本語力等を今後のために知っておきたい、という動機で参加して下さっていることが多い。最近ではあまりなくなってきたが、以前は技能実習生との差異も感覚的な部分で理解していただくのが難しかった。

上記のように、両者にとってメリットのある機会ではあるが、課題も存在している。最も大きなものは、就職支援全体の課題でもあるが、マッチングにおけるズレである。少なくとも現状においては、在留資格の制約もあり、企業側は学生の専攻分野を気にする必要がある。かつ、この種の交流会にご参加頂ける企業の業種には、現状では偏りがある。留学生にとっても、自分が企業の採用候補になりうるのかどうか、より具体的には「文系の学生を雇ってくれるのか」ということが気がかりである。この点、つまり、事業の分野と学生の専攻という点において、詳細な情報は開示できないが、交流会における両者の需要と供給にはズレが生じている。さらに、特に中小企業の場合には、「海外進出」というよりも、どこか特定の国・地域に進出することが多いため、その進出予定地の学生に対して強く接触を希望する。その一方で、本学の所属学生には、上記の通り偏りがある。このような mismatches は、完全な解消は難しいものの、より多くの企業にご参加いただくことで、緩和可能である。

より多くの企業にご参加いただくために、交流会は他の行事とセットで実施してきている。企業を主な対象とした「実務懇談会」および「留学生採用支援セミナー（または活用支援セミナー）」である。

#### 4. おわりに

本稿では、協議会として採択された事業を中心に具体的な実施の様子を報告した。これらの各行事は、留学生にとっては日本における就職や企業について学ぶ機会であり、企業にとっては、留学生を知り、接触する機会である。顕在的であるか潜在的であるかの差異があるとしても、これらの機会のニーズ自体は間違いなく存在している。



また、この種の事業は、情報が行き渡り、システムが構築されればおしまいというものではない。中小企業の場合には、仮にこのような事業を通して、留学生を実際に採用したとしても、翌年も採用することは多くないと考えられる。一方で留学生は毎年入れ替わっていき、その度に教育や情報の更新が必要である。そのため、これらの試みを継続的に実施していくことが重要である。

本稿で取り上げた行事を実施するに際しては、キャンパスが4つに分かれているという香川大学固有の問題に加え、全学的なスケジュール調整や協議会として他の機関の学生も募ることもあり、様々な課題が存在している。

しかしながら、これらの試みを通して、留学生と地域社会をつなぐことができれば、協議会としても教育機関としても地域社会の多文化共生に貢献できることになるため、今後とも使命感を持って取り組んでいく所存である<sup>8</sup>。

## 参考文献

中本 進一 (2015)「多文化共生政策を視野に入れる留学生受入れー地域国際交流を再設計するー」、ウェブマガジン『留学交流』2015年7月号、Vol. 52

塩井 実香 (2013)「地方大学における日本企業就職のための日本語教育支援」、ウェブマガジン『留学交流』2013年1月号、Vol. 22

---

<sup>8</sup> さらに、中本 (2015) に紹介されている事例のように、留学生と企業との接点を多様化していくことが、本来は望ましいと考えられる。